

広 報

しょうぼう

No.29

 ■令和7年3月31日
 ■発行／里庄町消防団


誓い新たに火災ゼロを目指して

里庄町消防出初式

～里庄町消防出初式～



令和7年1月26日（日）、里庄総合文化ホール「フロイデ」電動中ホールにおいて、里庄町消防出初式を挙行了しました。

式には、消防団員・婦人防火クラブ員・笠岡地区消防組合職員が一堂に会し、消防防災に対する意識と、地域のつながりをより強固にし、一致団結して活動にあたる決意を新たにしました。

また、川崎団長が「昨年は、日向灘沖を震源とする非常に大きな地震が発生し、初めて南海トラフ地震臨時情報も発表されたことから、南海トラフ地震

に対する危機感や緊張感が一層高まった。こうした中で、特に大切なことは、地域の中でお互いの顔が見える密接な関係を築き、人と人とのつながりを強めることであり、消防団員・婦人防火クラブ員においては、地域内で互いの人間関係を築き、つながりを強め、関係機関と協力・連携を密にし、より一層の御尽力をお願いする。」と訓辞し、その後は、歴年の消防活動において活躍した消防職団員に各種表彰状が授与されました。

里庄町消防団 令和7年度 行事予定

主な行事	4月	入退団式
	8月	夏まつり里庄警備
	9月	備中地区若手団員・女性団員情報交換会
	10月	消防団訓練
	11月	防火パレード・機関員研修会
	12月	年末夜警
その他	2月	消防出初式・文化財防火デー消防訓練 2市1町合同林野火災訓練
	3月	防火パレード・救助用資機材研修会
	①	毎月第1日曜日に無線テストを実施
	②	各部において小型ポンプ操作、放水訓練など

随時 災害出動



所 属 分 館



本 部	町内全域
第 1 部	浜中全域
第 2 部	西ノ平・ハツの・グリーンクレスト全域
第 3 部	宮地・狭田
第 4 部	才申
第 5 部	大原中・大原西
第 6 部	殿迫・松尾・手ノ際
第 7 部	本村
第 8 部	土井・林・古井
第 9 部	岩村・津江
第 10 部	川南・干瓜・堂迫・金山・駅前
第 11 部	大原東・明地
第 12 部	安広・西平井・南平井・東平井
第 13 部	高岡・屋中



団員の連携をより強固に

～林野火災訓練～

令和7年2月9日(日)、つばきの丘運動公園において、消防団各部の相互連携や、団員の実践的な技術の習得を目的に、林野火災訓練を実施しました。この訓練では、『遊歩道で投げ捨てられたたばこの火が山林へ燃え移り、更に強風に煽られ、飛び火して延焼拡大した。』と想定し、川崎団長の指揮のもと、第1次出動として①【第4部-第8部-第12部】隊と②【第10部-第2部-第13部】隊の2隊が公園内の憩いのため池を水利に、第2次出動として③【第1部-第6部-第9部-第11部】隊が公園西側の茅原池、④【本部-第5部-第7部-第3部】隊が公園南側の辺々下池を水利に、消火活動に当たりました。

各隊は、水利から約350m先にある火点を目指し、高低差があるにも関わらず迅速にホースを展張し、安定した水圧で放水できるよう中継地点にあるポンプへ連結し放水しました。

団員は、安全・確実・迅速な消火活動ができるよう、各々の役割を果たし、無線機で綿密な連携を図りながら真剣に訓練に取り組みました。



小型動力消防ポンプ 2台を導入

～消防資機材整備事業～

町は、令和6年度事業として、国の消防団設備整備費補助金を活用し、セル付きの小型動力消防ポンプを2台導入し、第7部と第10部に配備しました。このポンプは、従来のリコイル式のものに比べて起動が容易な構造になっており、今後、より迅速・確実な消火活動のために活用される予定です。



大規模災害に 備えて

～救助用資機材研修～

令和7年3月2日(日)、鴨方消防署の訓練場において、署員指導のもと、エンジンカッター、チェーンソー、油圧コンビツールなどの救助用資機材の取扱いを学ぶ研修を実施し、第2分団(里見地域)の団員が参加しました。

この研修は、万一の災害が発生したときに、消防団員が救助活動に取り組めるよう、資機材の取扱いに必要な知識や技術を習得することを目的に実施したもので、団員は資機材で木材や鉄柱を切断する訓練を行ったほか、重量物に挟まれて動けない人形の救助訓練を行うなど、実践形式で資機材の取扱いを学びました。参加した団員は、使い慣れない資機材の扱いに苦戦しながらも、集中して訓練に取り組みました。



春季火災予防運動に 合わせて～防火パレード～



令和7年3月2日(日)、第1分団団員、婦人防火クラブ員が、春季全国火災予防運動に合わせて、防火パレードを実施しました。

パレードでは、里庄町役場前駐車場で出発式を行った後、町内全域を巡回して、火の取扱いの注意喚起や住宅用火災警報器設置の大切さなどを呼び掛けました。



備中地区女性・ 若手消防団員 情報交換会で発表



令和6年9月28日(土)、備中地区管内の女性消防団員・若手消防団員を対象とした情報交換会が総社市で開催され、里庄町からは、第2分団第13部の貞利部長が出席し「消防団の活動内容」をテーマに発表しました。

(要約)

里庄町消防団は、昨年度から、これまでの操法の練習に加え、他の部と可搬ポンプを連結して水を出すという実践的な訓練を取り入れ、訓練の成果を、林野火災訓練という形で披露しました。

ここ数年に入団した若手団員は、コロナ禍で訓練の機会が減っていたことから、ポンプの操作やホースの結合等の基本的な練習が不足していたのではないかと思います。昨年度の実践的な訓練により、若手団員は着実に技術を習得することができ、成長できたと感じました。また、災害発生時には、いつもベテラン団員が揃うとは限らず、若手団員だけになったとしても、自信を持って正確に、そして安全に活動するためにも非常に有意義な訓練となりました。

こういった素晴らしい訓練をする里庄町消防団を、ますます盛り上げていくために、我々団員が一致団結して、これからの消防団の将来を背負っていけるよう、消防団活動に励みたいと思います。

消防団長等研修会で発表



令和7年2月7日(金)、岡山県下の消防団および消防本部から、消防団長等が一堂に会する消防団長等研修会が岡山市で開催され、里庄町からは本部の女性団員が「女性消防団の活動内容」をテーマに発表しました。

里庄町消防団では、令和4年8月に5名の女性団員が入団し、これまで里庄駅での火災予防啓発や、初期消火訓練への参加、夏まつり里庄での警備等の活動を行ってきました。現在、団員数は8名まで増え、今後も引き続き女性の視点を活かした予防啓発活動や後方支援活動の準備など、多岐にわたって活動できるように取り組んでまいります。



街を守る、次世代のヒーロー&ヒロイン、
待ってます!!!

里庄町 消防団員募集



『消防団について』

消防団員は、火災や災害時に消火活動や救助活動を行う非常勤特別職の公務員で、地域防災活動の重要な役割を担っています。

『消防団の活動について』

消防団の活動は、火災や風水害などの災害出動だけでなく、資機材や消火・防災に関する訓練、警備や火災予防啓発など、多岐にわたります。

『各種制度について』(令和7年3月31日現在)

- ・消防団員には、階級に基づく報酬と、出勤時の費用弁償が支給されます。
- ・活動中に負傷してしまった場合は、公務災害補償が適用されます。
- ・活動で使用した自家用車に損害が発生した場合や7日以上入院が発生した場合には、それぞれ見舞金が支給されます。
- ・5年以上職務に携わって退職した消防団員には、退職報償金が支給されます。

詳しくは、里庄町総務課またはお住まいの地区の消防団員にお尋ねください。



第10回 初期消火訓練大会出場

令和6年10月11日(金)、笠岡地区消防組合が開催した第10回初期消火訓練大会に里庄町消防団の女性団員4名が出場しました。



この大会は2名1組で消火的の模擬火災を水消火器で消火するまでのタイムおよび操作技術を競うもので、練習の成果を発揮し団体の部で優勝しました。



火あそびはしません!

～東・西幼稚園幼年消防クラブ～

令和6年11月7日(木)、里庄東幼稚園・西幼稚園児による幼年消防クラブを実施しました。

園児たちは、「ぜったいに ひあそびはしません!」

と防火の誓いを元気よく宣言し、婦人防火クラブの小野会長と鴨方消防署員の話を真剣に聞いていました。その後は、消防ポンプ車や資機材のことを学び、防火服を着て消防士になりきりました。最後には、ポンプ車の放水を見せてもらい、園児にとって思い出に残る体験となりました。



兵庫県広域防災拠点を見学 ～婦人防火クラブ視察研修～

令和6年7月28日(日)、兵庫県広域防災センターにおいて、婦人防火クラブの研修を実施しました。研修では、西宮市消防局の元消防士の方から、「阪神淡路大震災が発生した際、要救助者が大勢いたが、その大多数は近所の人によって救出された。普段から地域の横のつながりを作っておくことが大切である。」と講話があり、クラブ員は地域に根差した婦人防火クラブの活動の重要性を再認識しました。

また、講話の後には、隣接する陸上競技場のスタンド席の下部に設けられた、約5,000㎡の広さの大型備蓄倉庫を見学しました。倉庫内は大量の物資や資材が綺麗に整頓されており、物資は保管した年を色で区別していたり、トラックを横付けして搬出ができるといった工夫がなされていました。

研修を通じて、防災意識の啓発やクラブ員同士の親交を深めることができました。



参加したクラブ員の感想

- 地区の人と顔を合わせる機会や、コミュニケーションを普段から取っておくことが重要だと思った。
- 備蓄倉庫を見学したことで、家庭での備蓄不足に気づくことができた。
- 視察研修には何度も参加しているが、毎回新しい気づきや発見がある。
- 地区を越えてクラブ員同士の交流ができて良かった。

など、多くの感想がありました。

婦人防火クラブ 会長のことば

会長 小野 妙子

里庄町婦人防火クラブは、昭和59年に発足し、40年が経過しました。発足時から『家庭から火を出さない』を合言葉に初期消火や防火防災の普及啓発活動を実施し、火災予防に取り組んできました。この40年で時代は大きく変わりましたが、火災予防のためには、各家庭での防火意識の醸成や、正しい防火知識を身につけておくことが大切であるということに変わりはありません。私たちは、これまで婦人防火クラブで活躍された先輩方の意思を受け継ぎ、次の世代へ防火防災の知恵を伝えていくことが使命であると思います。

さて、令和6年度は、兵庫県の防災施設への視察研修、産業文化祭での防火啓発活動、消防団林野火災訓練の見学、年末夜警、消防団と合同で実施した防火パレードなど、充実した活動を実施することができました。

クラブ員の皆様におかれましては、平素からお忙しい中、各分館から選任され、御協力をいただいておりますが、今後の活動についても、ぜひとも積極的なご参加をお願いし、ご家族に、地域の方々に、輪を広めて火災予防・防災減災に努めて参りましょう。



主な 活動実績	4月	総会	12月	年末夜警
	7月	視察研修 (兵庫県広域防災センター)	1月	町消防出初式
	11月	産業文化祭での火災予防啓発活動	2月	消防団林野火災訓練見学
			3月	春の防火パレード